

新しい風

社長はシングルマザー

〇〇〇中

シングルマザー世帯は、を説明している。「女性、ビジネスはほとんど拍子
 図の一九九八年調査で九の持つ気配りや感性は、に積み「あつ」という間に
 十五万四千九百件。離婚、接客業向き」と、同社に、夫の収入を助えた」。
 非婚での出産が増え、母 登録した女性約三百人を、離婚は「収入が理由
 子家庭はすでに百万世帯 接客のプロとして育成。、ない。家庭に不満があ
 を超えたとはいわれる。 同社が取次代行などを請、るわけでもなかった」。
 「シングルマザーとして、 け働く飲食店やアパレル、ただ、仕事を残して家
 生きることを選んだのは、 由に派遣している。戻ると「自分の場所から
 誰でもない、この私」。 社員十五人は全員女、離れていくような不安と
 シングルマザー」というマ、性。設立から右肩上がり、無りが続いた。「社会か
 インリティーが社会から、の成長を続け、〇七年春、ら必要とされている場所
 受ける不当な扱い。怒り、をめぐりに上場も視野に入、で生きていたい」。気持ち
 や厳しさを身を持って体、れる。ち日は増しに高まった。

◇ ◇
 川崎昌子さん「富」がエ、結婚後は「専業主婦を
 ニース(大阪市西区)を、人らと英会話スクールを、ど「ぶりの五年間」。しか
 設立したのは、二〇〇〇、ない時代。ネーティブス、し、社会から遮断されて
 年。オーダーメイドス、ピーカーのいる学校は珍、いる寂しさを感じ、家事
 「世帯主の女性」をキ、しく、子ども向けの教室、をこなしながら外国の友
 ワードに、衣・食・住、が予想以上に受けた」。

母子家庭の平均収、入は一般家庭の約40%しかなく、シંગ
 ルマザーの五人に四、人が、今の暮らしは、苦しい」と感じてい
 る(厚生労働省・二、〇〇三年度版母子家、庭白書)

世帯主の女性を支援



「世帯主の女性」を支えるビジネスを考え続ける川崎さん

ピンチはチャンス 迷わず進め

要を連れて再出発。個、店経営するなど事業を、人輸入のアフィリエイトを大、拡大していった。アパレ、ル業界に身を置いて感じ、たのは、「女性の仕事に、は、興味有限」があるこ、

「これまで、どんなに忙、しい日々を過ごしても、子どもに対する愛は、はなかつた」。むしろ、「背中を鬼で育て、誇り、に思えば言い聞かせた、といっても、仕事をし、て娘も怖かったのは、「子ども」。どんな男性、を前にしてもひるむこと、はなかったが、子どもが、発する「たった一言」で、落ち込み悩むことは多、い。「それが助にもな、ったんやけ」。

「これまで言いたいこ、とを書きつけた。理解し、てくれてるんがな。は、友達みたい」。互いが互、いを支え合って生活して、いる。

「迷わず進めばどうに、かなる。私もどうにかな、って来た」。ピンチは、チャンスがスローガン。「後ろを振り返っても仕、方ない。自分のありのま、まを受け入れて、これか、らをわもしろく生きて、い」。

と二。そして、一度社会、人としての役割を遊いた、シングルマザーは「たと、え能力があっても社員と、して再び職を得るのが困、難なこと」。

「シングルマザーを取、り勤又環境を変えていき、たい」。エニース設立の、背景には、そんな切実な、思いがあった。自身が、社会から迫害される痛み、や怒りを繰り返してきた、からこそ、生きたビジネ、スが展開できる。

川崎昌子さん (女性雇用創出ビジネス)

遊の各分野で女性の雇用、機会を創出するビジネス

(藤田美穂記者)